



青森県十和田市が推進中のアートによるまちづくりプロジェクト「Arts Towada (事業名称：野外芸術文化ゾーン整備事業:2005 年度～2009 年度)」の中核施設『十和田市現代美術館』が 2008 年 4 月 26 日(土)に開館いたします。

## [Arts Towada とは]

Arts Towada(アーツ・トワダ)は、十和田市の中心市街地に位置する長さおよそ 1.1km のシンボルロード「官庁街通り」全体を美術館と見立て、アート作品、中核施設である十和田市現代美術館、アートプログラムの 3 つの要素を柱に 2005 年から 5 カ年をかけて実施するプロジェクトです。「アート」という新しい要素をまちづくりに取り入れることで、人々が楽しみ、交流することのできる新たな魅力をもつ場を作り出すことをめざしています。Arts Towada の中核施設である「十和田市現代美術館」は、まちづくりとアートが一体となった取り組みのもと誕生しました。この美術館は、アートを通した「新しい体験」を提供する場となり、新しい美術館の可能性を開いていきます。

## [十和田市現代美術館とは]

十和田市現代美術館は、アートを通した新しい体験を提供する開かれた施設として、国内外で活躍する 21 人のアーティストによるコミッションワークの展示のほか、芸術文化活動の支援や交流を促進するための施設です。常設展示室、企画展示室、休憩スペース、市民活動スペース、屋外イベントスペースなどの多様な機能を内包しています。

その特徴は

- 個々の展示室を、「アートのための家」というコンセプトで、それぞれの作品が、独立した作品に適した空間を恒久的に与えられている。
- 休憩スペース、エントランス・ホール、階段室、中庭、外部照明などパブリックエリア等敷地全体に作品を展開している。
- 展示室に大きな開口を設け、官庁街通りと美術館の活動や作品が連続していくようなつくりになっており、来訪者は屋内空間と屋外空間を同時に体験することができる。またさまざまな方向に向かって大きなガラスの開口を持ち、アート作品が街に対して展示されているかのような開放的な構成となっている。
- 各展示室を独立配置させることで、それぞれのアート作品にあわせて建築空間をつくることができ、両者がより密接な関係が生まれている。
- この分散型の建築構成は、広場と建物が交互に並ぶ官庁街通りの特徴から着想を得ており、建物に大小のボリュームをつくることで、大小の建物が並ぶ通りの景観と連続性を持たせている。
- 柔軟でさまざまな可能性をもつ建築になっている。

## [アート作品について]

Arts Towada では、十和田市現代美術館や官庁街通り沿いを対象に、「都市、自然そしてアートの共生」と「アートを通した経験」をコンセプトに掲げ、多様な表現をもつアート作品を 5 ヶ年かけて段階的に設置していきます。十和田市現代美術館には、国内外で活躍する 21 人のアーティストが、都市や自然、そこに生きる人々との対話の中から生み出した 22 のアート作品が展示されます。

その特徴は、

- 新しい体験、自然と人間との関わりをテーマにしている。
- 一時的な展覧会では望めない、恒久的な大型インスタレーションを中心にしている。
- グローバル化する美術の状況を考慮して、日本、欧米に加え、アジアの作家、南米のアーティストを選出している。
- アート作品は、この美術館のためのコミッションワークであり、建築の設計段階からアート作品と空間が深く結びついている。

**[Arts Towada 立案の経緯および沿革]**

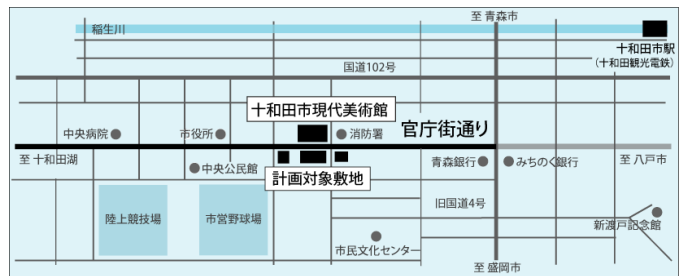
十和田市は青森県東南部に位置し、八甲田山や十和田湖など自然豊かな環境を有する地域と、奥入瀬川から取水した人工河川「稻生川」が潤す田園と都市機能を有する地域から形成されています。とりわけ中心市街地は江戸時代末期、新渡戸 傳(ことべ つとう)らの先人が、広漠な土地を美田潤う人々の里に変えようと、開拓の鋏を入れ、基盤目状に区画された「近代都市計画のルーツ」の地であり、今なお豊かな自然を保持しています。なかでも、官庁街通りはシンボルロードとして整備が進み、四季折々の景色が楽しめる憩いの場であるとともに、イベント会場としても親しまれています。また十和田湖、奥入瀬溪流への観光ルートとしても利用され、観光客からも好評を得ています。市ではより魅力的で美しい官庁街通りの景観をつくりだすとともに、未来へ向けた新しいまちづくりの一環として Arts Towada に取り組んでいます。

- 2001 年 十和田市役所企画調整課で野外芸術文化ゾーン構想の検討開始
- 2002 年 12 月 4社でのプロポーザルにより、官庁街通り活用基礎調査業務をナンジョウアンドアソシエイツに委託
- 2004 年 3 月 野外芸術文化ゾーン基本構想完成
- 2004 年 8 月 基本計画素案について検討するための「野外芸術文化ゾーン専門家委員会」初開催(委員 8 名)
- 2004 年 8 月 基本計画素案についてプロジェクトアドバイザー(17 名)からの意見聴取
- 2005 年 3 月 野外芸術文化ゾーン基本計画策定
- 2005 年 5 月 プロポーザル方式により、(仮称)アートセンター設計者を有限会社西沢立衛建築設計事務所へ決定
- 2005 年 9 月 設置作品の選定のため「アート作品検討委員会」を初開催(委員 5 名)
- 2006 年 3 月 (仮称)アートセンター建設用地取得
- 2006 年 7 月 (仮称)アートセンター建築工事着工
- 2007 年 2 月 拠点施設((仮称)アートセンター)名称を「十和田市現代美術館」と決定
- 2007 年 7 月 十和田市現代美術館アート工事及び外構工事着工
- 2008 年 3 月 本体工事竣工
- 2008 年 4 月 26 日 十和田市現代美術館開館

**[Arts Towada 今後の整備計画]**

Arts Towada は、2005 年度より 5 年間をかけて推進され、十和田市現代美術館開館後は、官庁街通り沿いの屋外スペースにシンボルアート等の作品を設置したり、沿道にストリートファニチャーを設置したりする予定です。Arts Towada 全体の完成は 2010 年春を予定しています。総事業費は約 27 億円を見込んでいます。

- 2008 年度
  - 6 月～3 月 アート作品設置及び外構工事(税務署跡地他)
  - 7 月～3 月 アート作品等実施設計(東北電力東側空地他)
  - 12 月 用地取得(東北電力東側空地他)
- 2009 年度
  - 6 月～3 月 アート作品設置及び外構工事(東北電力東側空地他)



**[Arts Towada 委員会、プロジェクトアドバイザー紹介]**

Arts Towada では、さまざまな方面で活躍する専門家を迎え、計画やアート作品、建築等について意見をききながら推進しています。  
(敬称略、五十音順、肩書は依頼当時のもの)

○専門家委員会(2004年度)

\*基本計画素案についての検討

梶原 文生 株式会社都市デザインシステム代表取締役社長  
北原 啓司 弘前大学教授  
小池 一子 武蔵野美術大学教授  
小林 央子 キャスター(十和田市出身)  
建畠 哲 多摩美術大学教授  
帆足 亜紀 ARCUSプロジェクトディレクター  
南條 史生 森美術館副館長 \*委員長  
和田 光弘 写真家、日本大学芸術学部写真学科講師(十和田市出身)

○プロジェクトアドバイザー(2004年度)

\*基本計画素案についての意見聴取

明山 應義 画家(十和田市在住)  
東谷 隆司 キュレーター  
五十嵐 太郎 建築評論家、中部大学講師  
大谷 新太郎 阪南大学助教授  
小澤 慶介 キュレーター、NPO AIT 理事  
小沢 康夫 プリコグ、パフォーミングアーツプロデューサー  
兼平 文憲 樹木医、青森県農林総合研究センター林業試験場  
北沢 猛 東京大学大学院助教授、都市デザイナー、横浜市参与  
鈴木 芳雄 株式会社マガジンハウス 雑誌 BRUTUS 副編集長  
立木 祥一郎 青森県美術館整備・芸術パーク構想推進課総括学芸員  
月舘 敏栄 八戸工業大学教授  
寺田 真理子 建築系キュレーター、エディター  
豊島 重之 イカノフ・キュレーター(八戸市在住)  
花巻 庄司 造形家(十和田市在住)  
原 久子 アートプログラム・ディレクター、ライター  
日野口 晃 ふおるむ美術研究会(十和田市在住)  
松永 康 国際芸術センター青森元学芸員

○(仮称)アートセンター設計者選定プロポーザル審査委員会  
(2005年度)

\*十和田市現代美術館の設計者の選定

五十嵐 太郎 建築評論家、東北大学助教授  
岩城 伸行 県立十和田工業高等学校建築科長  
川崎 富康 十和田市文化協会会長  
北原 啓司 弘前大学教授 \*委員長  
小池 一子 武蔵野美術大学教授  
南條 史生 森美術館副館長  
気田 武夫 十和田市助役

○アート作品検討委員会

(2005年度)

\*設置するアート作品についての検討

小池 一子 武蔵野美術大学教授  
立木 祥一郎 青森県文化振興課美術館グループ総括学芸員  
建畠 哲 国立国際美術館館長  
南條 史生 森美術館副館長 \*委員長  
花巻 庄司 造形家(十和田市出身)

(2006年度、2007年度)

工藤 健志 青森県立美術館学芸員  
小池 一子 武蔵野美術大学名誉教授  
建畠 哲 国立国際美術館館長  
南條 史生 森美術館館長 \*委員長  
花巻 庄司 造形家(十和田市出身)

[Arts Towada 十和田市現代美術館のロゴデザイナー]

東泉 一郎 / Ichiro Higashiizumi

○デザイン



十和田市現代美術館  
Towada Art Center

○略歴

東京都生まれ。理工学を学んだのち、現場労働などを経てグラフィックデザイナーに。以後、映像、プロダクト・デザイン、WEB プロジェクト、空間デザインなども手掛けている。"Sensorium"のディレクターの一員として、海外数カ所でインターネットを応用した実験的インスタレーションを行うほか、日本科学未来館のための展示コンセプトデザイン、2002 FIFA World Cupのための演出コンセプトワークなど、「初めてつくるものをつくる」を合言葉に、ストリートや音楽に根ざしたグラフィックから、トータルなコンセプトデザインまでを往き来しつつ、仕事をしている。

[関連ウェブサイト]

下記ウェブサイトにて詳しい内容や今までの活動をご覧いただくことができます。

<http://www.city.towada.lg.jp/artstowada/>

<http://www.artstowada.com/>

■媒体掲載用画像のお貸し出し■

十和田市現代美術館では、媒体掲載にご使用いただけるプレス用画像を用意しております。

画像および必要クレジットは下記のアドレスよりダウンロード可能です。

<http://data.nanjoandoassociates.com/press/>

ご使用になる際は [info@nanjo.com](mailto:info@nanjo.com) (ナンジョウアンドアソシエイツ新居/西山) へてにご一報ください。作品写真をご使用の場合は、記載の上ご使用ください。

ナンジョウアンドアソシエイツ(プロジェクト全体監修)

担当:新居(こい)、西山

tel: 03-3780-0491 fax: 03-3780-0753 email: [nii@nanjo.com](mailto:nii@nanjo.com)